



新たに導入したワイヤーカット放電加工機

# ワイヤーカット放電・形彫放電・レーザー・細穴の加工スペシャリスト

## 株式会社 カタ技術

### 事業内容と沿革

### プレス金型工場から松下電工(株)の協力工場として出発

昭和49年に初代社長(現代表取締役統括)の片山将氏が「カタ技術工作所」として創業、プレス金型工場から松下電工(株)<現パナソニック(株)>グループの協力工場として出発した。第一次オイルショックの直後で、機械加工も汎用機からNC(数値制御)機械へと移行していった時代に、ワイヤー加工機の将来性にいち早く着目し手がけてきた。ワイヤーカット放電、形彫放電、レーザー、細穴の各電気加工を得意とし、顧客の金型部品や機械部品を加工する。情報家電やカメラなどの金型部品、精密機械部品が主力。手のひらに乗る小型サイズが多い。電気で加工するため、通電するものはほとんど加工できる。超硬やダイス鋼、ステンレス、ハイスといった特殊材料からSS(一般構造用圧延鋼材)などの一般的な材料まで幅広くカバーする。レーザーではステンレス板、SK(炭素工具鋼材)、リボン鋼を主に加工し、ベニア板などでも実績がある。平成13年には片山将氏の長男の片山要氏が社長に就任し、世代交代した。片山社長は三菱電機エンジニアリング(株)で設計者として設計図面を描いていた職歴がある。新型設備やIT(情報技術)の導入に取り組む、独自製品の開発にも意欲的。大阪府門真市のものづくりの中小企業のリーダー的な役割も果たそうとしている。

### 強み

### 納期迅速で精度にも自信、顧客を200社開拓

納期の早さが身上。朝に注文を受けても夕方に、夕方に注文を受けても翌朝には納品できる。しかし、納期に間に合わないと言われる場合は無理に受注せず、迷惑をかけない。提案力も重視する。単に図面通り加工するのではなく、なぜそのような寸法になるのかなど問題があると判断すれば、顧客とも事前に徹底的に打ち合わせする。CADやCAMも駆使し、生産技術を磨いてきた。微細加工を手がけてきたので、精度にも自信がある。特定の顧客や加工品だけに専念せず、さまざまな顧客と加工品の相談に応じられる。ものづくりのサポート企業としてワイヤーカット放電を手がけられる工場は、門真市内に今や1、2社しかない。創業当初はパナソニックグループの仕事が多かったが、現在は常時の顧客が50社。年数回の受注も含めると、顧客は約200社に上る。広く受注先を築き、経営を安定させている。経済のグローバル化で国内生産が海外シフトしたが、電気製品の開発期間短縮や国内での試作増加に伴う加工ニーズは強く、「特に平成26年後半から仕事が増えてきた」と片山社長は語る。顧客から海外で加工する場合に比べ品質や精度の高さを見直され、発注されるケースも現れている。



新たに導入した形彫放電加工機



形彫放電加工機で高精度加工



新型の形彫放電機で制作した加工部品



レーザー加工機でベニア板を切断

企画提案 短納期対応 多品種少量 コスト相談

ものづくりの技を通じて  
社会の未来、発展、進歩に貢献



代表取締役社長  
片山 要 さん

創業以来、親子二代にわたり放電加工、特殊加工一筋に取り組んできました。ワイヤーカット放電加工・形彫放電加工・レーザー加工・細穴加工のスペシャリストによるものづくり集団です。現在は8台の加工機でがんばっており、ものづくり企業の悩み相談に対応しています。単品加工も、喜んで承ります。「この製品はカタ技術が加工した部品で製造されたものだ」と認識される企業を目指します。IT時代にも対応するため、日々精進しています。顧客および私たちの満足と感動のために、ものづくりの技を通じて社会の未来、発展、進歩に貢献します。

### 主な事業内容

ワイヤーカット放電、形彫放電、レーザー、細穴の各種加工

### 主な取引先(納入先)

家電、自動機、樹脂金型、精密プレス金型、ダイス、刃物の各メーカー

【住 所】〒571-0042 大阪府門真市深田町9-8  
【T E L】06-6908-9179  
【F A X】06-6906-5362  
【創 業】昭和49年1月 【設 立】昭和57年7月  
【資本金】1,000万円 【従業員】4名

### カドマイスターの取り組み

### 新型設備を導入

平成26年には、最新鋭の三菱電機製ワイヤーカット放電加工機と形彫放電加工機を相次いで導入した。いずれの機械も約2,000万円で、中小企業庁の「ものづくり補助金」も活用し久々の大型投資に踏み切った。設備更新による生産性向上や精度向上が狙いで、特に新型のワイヤーカット放電機では、これまでより一回り大きな加工もできるようになった。両機とも主力機と位置づけ、すでに納期短縮や、加工面の面粗度アップの成果が生まれている。

### ウェブサイト顧客開拓

現有設備は形彫放電機加工機3台、ワイヤーカット放電加工機3台ですべて三菱電機製。またアマダ製のレーザー加工機1台と細穴加工機1台を配置する。CAD/CAMシステムや板カム設計ソフト、測定器具も有する。インターネットのウェブサイトを通じて問い合わせは毎月数件くる。引き合いは自動車や航空機関連が目立つ。片山社長は「ウェブサイトで新しい顧客を開拓できる場合もあり、顧客層は広がっている」と説明する。

### 今後の展開

### 門真の中小製造業リーダーに、共同開発目指す

主な課題として掲げるのは加工精度の保証体制。現在は、顧客がカタ技術で加工した部分を自社の測定装置で高精度に測定し、確かめている。よって精度を測定し精度保証まで一貫して手がければ、顧客にとっては測定などの検査工程を省略することができ、発注メリットが一段と高まる。片山社長は「これからは本格的な高精度測定装置も導入し、より精度の信頼性を高めることが課題になる」と、検査までの一貫体制構築に前向きな姿勢を示す。そのほか、片山社長は平成27年7月、門真市中小企業サポートセンターが「次世代経営者育成塾支援活動計画」として立ち上げた中小企業の次世代経営者交流会の世話人会代表に就いた。同年10月に経営の勉強会を始め、その後平成30年3月まで、協同活動・共同制作・出展・テレビ出演、技能交流会も行う計画。「若い世代が力を合わせ、門真らしいモノを作りたい」と、共同開発・共同受注にも意欲を見せている。

<http://www.katagijutu.com/>

